実践研究福井ラウンドテーブル 2017 Spring Sessions

2/18（土）　9:30-10:50

## 特別企画フォーラム

「社会に開かれたイノバティブな中等教育の挑戦：財務省との連携に基づく「財政教育プログラム」の試み」

主旨：

　グローバル化、知識基盤社会、少子高齢化、人工知能が雇用に及ぼす影響など、子どもに迫る厳しい将来を前に、次にどう足を踏み出せばよいのか――現場の教師の偽らざる実感である。この戸惑いは、一方で、「これまでも様々な方法を試みてきたではないか」というやりきれなさであり、他方で、それでもなお、子どもの将来に責任を負わなくてはならないという専門職としての自覚が複雑に入り混じった両義的な感情のあらわれなのであろう。

特別企画フォーラム「社会に開かれたイノバティブな中等教育の挑戦」では、この戸惑いを大事にしたい。もう少し丁寧に言えば、戸惑いを抱えながら何かを試みることに力を与えたいのだ。「イノバティブ」という言葉を、そのような試みを促す優れた概念として、また、「社会に開かれた」という言葉には、地域社会がもつ教育資源と互恵的な連携関係に基づいて社会的要請に応える新しい教育方法を模索するという課題意識を凝縮させたい。

省察を加える試みは、財務省と連携して実施した財政教育プログラムである。財務省にとって、また、三つの実践校の教師にとって、そして、受講した生徒にとって、このプログラムは、何をもたらしたのであろうか。ここでは実践内容の紹介よりも、実践の持つ意味や可能性について理解を深めたいと考える。そうするために、生徒自身に財政教育プログラムにおける学びについて語ってもらう。この「語り」を中心にすえて会をすすめていく。生徒たちは何を学びとったのか、そこから、教師は、財務省は何を学びとるのか。多くの方々にご参会いただければと思う。

Session 0　オリエンテーション 9:30-9:35

SessionⅠ　財政教育プログラムの試み　9:35-9:55

SessionⅡ　財政教育プログラムにおける学びとは？　9:55-10:40

　A　生徒は何を学んだのか？――生徒によるトークセッション――

　　　　　奈良女子大学附属中等教育学校、富士市立高等学校、福井県立敦賀高等学校の生徒

　B　教師は何を学んだのか？――教師によるトークセッション――

　　　　　海老原　宗貴（財務省主計局調査課・課長補佐）

鮫島　京一（奈良女子大学附属中等教育学校・教諭）

遠藤　健（富士市立高等学校・教諭）

玉井　淳（福井県立敦賀高等学校・教諭）

SessionⅢ　社会に開かれた学びの創造に向けて　10:40-10:50

司会：木村　優（福井大学教職大学院・准教授）